

平成28年度日本型直接支払等推進委員会の議事要旨

1 日 時 平成28年5月19日（水曜日）14:00～16:30

2 場 所 ピュアリティまきび（岡山市北区下石井）

3 議事内容

- (1) 平成27年度多面的機能支払交付金の実施状況について
- (2) 平成27年度中山間地域等直接支払交付金の実施状況について
- (3) 平成27年度環境保全型農業直接支払交付金の実施状況について
- (4) その他（岡山県農業振興地域整備基本方針について）

4 議事要旨 ※■委員の意見 □事務局の回答

(1) 平成27年度多面的機能支払交付金の実施状況について

■中間評価について、この委員会ではどのような評価を行うのか。

□評価のやり方は、活動組織からアンケート等により報告を受け、市町村の評価等を基に県が集約を行う。これをとりまとめた評価書を委員会に報告して、そのまとめ方等について、審議をいただく予定。

■組織アンケートでは、数量的・質的なデータが挙がってくるのか。

□実績報告等により数量的な評価はとりまとめができる。今回の中間評価では質的評価が主になってくるので、どのように評価するかを、具体的に提示して評価について意見をいただく予定。

■カバー率で各市町村でのバラツキを市町村はわかっているのか、また低い自治体にどのように推進しているか。

□市町村の負担もあることから制度的な説明とあわせて行っている。また国と県で自治体へ推進活動を行っている。公開の形で研修会も開催している。

■市町村の負担（1/4）が進まない要因となっていないか。

□市町村の独自の補助からこの制度に乗り換えて財源を確保している自治体もある。市町村の負担に対して国から財政支援があることの説明も行っている。

■市議会議員等を通じて自治体へ要望する方法もある。

■美作管内の取組が多い理由はなぜか。また、取組のない自治体はなぜか。

□美作管内の取組が進んでいるのは、ため池用水のため集落単位での取組がやり易かったのではないか。取組の無い2町は、都市化が進んでいて農振農用地とそれ以外との取扱いについて結論が決まっていない状況で未取組。

■婦人会等ではこの制度はあまり知られていない。女性主導で取組んでいる組織はあるか。高齢者にとって提出書類が複雑で困る、限界集落なのでリーダーとなる人材がいけないなどの意見を聞いている。また、いい制度なのでなくさないでほしいとの意見も聞いている。

□組織の会長はほぼ男性となっている。会計では女性の方もいると聞いている。活動により異年代交流があり活性化につながっていると聞いている。小さな集落単位の組織では各々で書類提出となるが、広域な組織を作ることによって書類提出も1回で済むなどの方法もあるなどPR提案を行っている。

■女性にわかりやすい女性向けのマニュアル等の作成をお願いする。

□女性を対象とした資料づくりなど取組んでいきたい。

(2) 平成27年度中山間地域等直接支払交付金の実施状況について

■農地を荒廃させないために、景観作物導入を推進してはどうか。

□多面的機能を増進する活動の選択項目として景観作物の導入が位置づけられている。活動項目の選択は取組集落が決めることであるが、地域に活力を与える活動に直払交付金を有効に活用してほしい。

■5年間の取組継続にためらう高齢者が1年でも長く農業を続けるための支援はあるか

□直払には病気や家族の介護等事由によって返還を免除する規程もある。市町村へ周知し、各集落へ取組継続の後押しをしてほしいと考えている。

■各集落で負担が大きいと思われる事務作業について行政による支援はあるか。

□実際には市町村がかなり協定の支援をしている。国へ要望し事務の簡素化も図られてはいるが、依然として簡素化を求める地域の要望は多い。市町村へは、地域おこし協力隊を活用してはどうかと提案している。

■現地の状況を確認する仕組みはあるか

□各市町村において、事業で定められたチェックリストで活動の内容や農地の状況を確認している。

■小区画不整形の農地は、直払の対象としてニーズがあると思うが、取組が無いのはなぜか。

□小区画不整形は、定義が難しいため、各市町村において交付対象としていないのが現状。

(3) 平成27年度環境保全型農業直接支払交付金の実施状況について

■食育や消費の面からも考えることが大切。付加価値をつけ、販路拡大とセットで取り組むことが重要。

□環境保全型農業直接支払交付金は平成27年度から推進事業の実施が必須となっており、食育等を含めた消費者への理解促進に各農業者団体が取り組んでいる。本日もご紹介した団体のように、こだわり米の販売につなげていくなど、きっかけづくりになればと思っている。

■3事業通じて取組が多い町があるが、理由について分かることはあるか。

□特に聞いてはいないが、化学肥料や農薬を軽減する農業は、ノウハウがない中では、取り組みにくい現状がある。地域にリーダー的存在があり、取組が広がっているのではないかと思う。

□その地域は以前からほ場整備が進んでおり、基盤ができているため、さまざまな取組がなされているのではないかと思う。

■取組が盛んなところは、地域での連携が強いのではないかと思う。最近は農家といえども、連携があまり強くないところが増えている。そういった点を確立しないと、こういった事業は続いていかないと思う。

(4) その他（岡山県農業振興地域整備基本方針について）

□基本方針変更の報告・御礼のあと、前回の委員会とその後、委員から頂いた意見31件の中から、H28. 2. 10の当委員会で回答できていない意見やその後頂いた意見17件について県の考え方を説明した。

■大変貴重な資料だと思う。

■意見21番「農業地域別の構想」については、次回基本方針を変更する際に、農振基本方針の「農業地帯」と21世紀おかやま農業経営基本方針の「岡山県地域別区分」との関連がわかる図を入れたらどうか。

□次回変更の際、参考としたい。